

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議
						

平成 30 年 6 月 14 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

産業建設委員会
委員長 岡本 正友 

産業建設委員会視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 期 間 平成 30 年 5 月 22 日 (火) ～5 月 24 日 (木)

2. 参加者

岡本正友委員長 申崎利行副委員長
三浦大紀委員 川上幾雄委員 笹田卓委員 飛野弘二委員 牛尾昭委員
議会事務局 庶務係長 鎌原浩治

3. 視察内容

(1) 群馬県館林市城町 1 番 1 号 館林市議会
平成 30 年 5 月 23 日(水) 午前 9 時 00 分～11 時 00 分

① 調査研修内容

- ・つつじを活かした観光事業について
- ・館林市と浜田市の歴史的交流について
- ・現地視察

② 調査研究活動の概要

○つつじを活かした観光事業について
公園の歴史と概要、公園内におけるイベントや観光事業について説明を
うけた。

- ・国指定の名勝
- ・旧公園と新公園部分に希少品種がある (樹齢 800 年になるものもある)、
強みは品種と樹齢
- ・県から移管され、以後市が管理
- ・100 品種、1 万株 (ヤマツツジ、キリシマツツジが主)
- ・約 11 万人/年の来園 (4 月～5 月)



- ・公園でのイベントを連続開催
- ・つつじまつり（コンセプトを今年度つくった）→江戸の雰囲気づくり（番傘を出す、コスプレできるようなツール用意）
- ・花菖蒲祭などでは縁のある天童市の物産展などを行なう（交流事業）
- ・久留米などは（つつじの）生産もやっているが、館林はこれまで育てられたものを管理するというので、資源活用としている



つつじヶ丘公園のつつじ *群馬県 HP よ 公園内にあるつつじ映像学習館
り

(質疑応答)

Q：1.7hの整備費用はすべて市の負担か？

A：県の管理のときからも市負担はあった。現在は20人近くで整備。公園全体で約1億。歳入は5,900万くらいが実態。担当はつつじヶ丘公園課。PR費用などは別。

Q：移管はスムーズだったか？

A：上物（温室、水産学習館）は、リクエストしながら整備してもらった。土地はまだ県の名義。

Q：コンセプトをつくったのは、移管後？

A：現市長コンセプトをたてるべきと提案。歴史好きということもあるが、市内回遊を促進させるために全体を、江戸当時の雰囲気づくりを目指している。

Q：甲冑と鉄砲は公園内のみ？史実にもとづいた形で演出しているか？

A：公園内で実施。鉄砲隊などは市外にお願いしている。有形文化財なので、それに基づいている。

Q：甲冑を着るなどは？

A：そこまでは至っていない。来年からは市民に公募して甲冑をきてもらう取り組みをしてもよいのではという話はでている。

Q：つつじを活かした祭りが（開花中の）短期間に様々行われていることがすばらしい。市民への入館料の配慮は？

A：市民の無料デーをつくっている。3日間程度。県外からはほとんど車。滞在時間が短くなってきている。都市公園なので、どこからでも入れる。期間中は6～7箇所くらい券売所や柵をつくる必要があり大変。

Q：ツツジ茶とあるが、どういうものか。

A：ハーブティーにドライつつじをいれているようなもの。特段効能はない。花びらはつかえるが。

Q：グッズなどの制作について、募集しながらつくるのか？

A：著作権はない。イメージを壊さない程度に使用を促している。

Q：市の花と木は？

A：やまつつじ、黒松

Q：世界一とうたっておられるが、何が世界一なのか？

A：希少性。樹齢 800 年（史実に基づいた推定）のものなどが群生しているところ。

（質疑応答）

町の歴史と公園（つつじ）の歴史が重なっており、資源としての付加価値が全面に出されている。管理コストはかかるが、シーズン中の入園料について、最盛期とその前後で入園料に差をつけるなどの工夫を取り入れながら、貴重な自主財源の確保努力が見受けられた。都市公園として、地域住民の憩いの場として日常的に活用されていることがベースにあるため、祭りなども地元市民が楽しむものとして定着しているところが何より評価される。浜田城跡は、同様の活用方法はされていない。城跡にこだわらないが、市民が日頃から憩える・集える公園の必要性を感じた。そのための環境整備や都市計画の方向性を検討すべきである。

県から移管された上物については、4D のシアターとして整備されていた。カフェが隣接しており、公共施設の運用において、来園者のニーズに合わせた柔軟な対応を本市としても積極的に検討していくべきと考えられる。

○館林市と浜田市の歴史的交流について

館林城と越智松平家について説明をうけるとともに、ゆかりのある史跡を現地視察した。

・担当者は、館林市の事業の関係で H8 に浜田市へ訪問。本市から資料提供などを行なっている

・江戸の北の守りとして位置した城

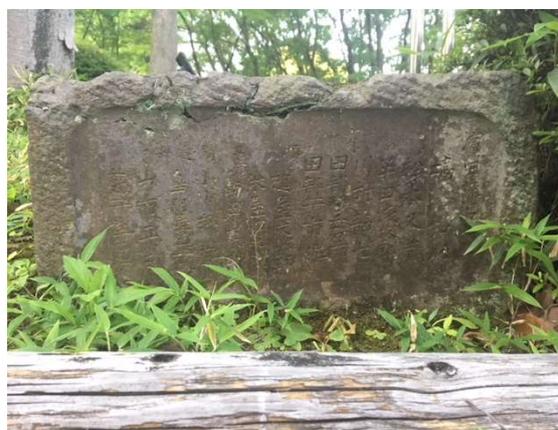
・全部あわせると 110 年間に松平家がおさめている

- ・松平斉厚が国替えで浜田へ
- ・松平が最も長いが、浜田にいつってしまったので、資料が少ない（最後のところにいかないとわからない）。
- ・財政難のときに城をつくるのは大変厳しかったが、段階的に築城していった。治めていた110年のうち、約90年は城をつくっていたことになる。

以下は、天保7年（1836）、館林城主であった松平斉厚が、浜田移封の際に、藩士たちが館林に在城中の感謝の意を表すために、城下の八下神社に奉納したものと考えられている浜田藩中奉納鉢。側面には、当時の家臣たちの名前が刻まれている。



浜田藩中奉納鉢



鉢の側面

（質疑応答）

Q：浜田では大名行列を保存する取り組みがある。資料などのこっているものか。

A：旗など資料がある。御三家に筆頭するので、（大名行列も）それなりの大きなものだったと思われる。

Q：開府400年のイベントにぜひおでかけいただきたい。空港が近くにあって、都市部との交流が鍵と思っている。 *他、史実に関する質問

Q：家臣の数はどれくらいであったか？

A：700～800人くらいではないか。家臣のみ。江戸のはじめは寺も一緒に移動している。

Q：廃城の理由は？

A：継ぐものがいなくなったので、幕府のものにしてしまおうという考え方と、子どもが亡くなって悲しかったというのも理由としてあるのではと思う。

Q：市民に対する歴史教育などの取り組みはどのようなものがあるか。資料館やボランティアの育成はどのように行なっているか。

A：市史の編纂している。授業でつかってもらうなど今後検討。周年事業でつくった漫画は人気。副読本もつくって、文化・産業も全体的に知らせるようなことはしている。資料館は小さいもの。文化財、観光ボランティアがいるが、支援はコピーをとるくらいの援助程度。自主的に勉強していて、1団体20人くらい。城跡だけでなく、つつじの銘木をご案内するなどの団体もある。今後は、地元で有名は上毛かるたをつかった教育などもよいかと検討中。

Q：資料館の利用は？

A：10,000人くらい。有名な資料などがくると来館者が増える。

Q：廃城の理由は？

A：城をつくるときに幕府から資金提供はあるが、見積もりほどもらえなかった。年貢を増やさざるをえず、一揆などもおこっている。

(所感)

短時間ではあったが、館林の藩政をうかがうことで、浜田市との繋がりを再確認することができた。これまで、資料提供程度のつながりであったが、今回の訪問を新たなスタートとして、両市の親睦が図られることを期待したい。また、開府400年の様々な事業においても、館林をはじめとする関係市との交流・接点を積極的につくり、市民に対する歴史教育に深みを持たせる機会提供の場とするべきである。こうした交流はぶつ切りでなく、継続的に行うことが重要。関係性を大事にして、歴史的交流に止まらず、まちづくり全般において物産・人事などの交流に結びつけることも検討すべきである。人事などの交流に結びつけることも検討すべきである。



(2) 愛媛県松山市久保 428-2 及び上高野町 9 3-1 三福グループ
平成 30 年 5 月 24 日(木) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分

① 調査研修内容

陸上養殖及び植物工場の取り組みについて

②調査研究活動の概要

○三福アクアポニックス工場（瓦工場を再利用）

愛媛県松山市久保 428-2（ハーブ工場＋魚工場＝アクアポニックス）

工場面積 陸上養殖 50 坪、植物工場 45 坪、事務所 5 坪

アクアポニックスとは？

養殖＋水耕農業の造語で魚の排出物、食べ残しが溶け込んだ飼育水を肥料として利用し、植物も育てる複合生産技術のこと。

歴史上最も古いアクアポニックスは 1000 年前の南米の「ナチンバ（いかだ上での農業）」と言われている。

アクアポニックスの特徴は？

ア．有機栽培であり、付加価値が高い。

イ．水耕栽培システムが養殖側の濾過槽代わりとなり、養殖側の濾過コスト削減と同時に水耕栽培側も肥料費削減にもなる。

ウ．養殖水の熱を利用することで、水耕栽培側の温度調整費用を削減し、養殖と水耕栽培複合化によりエネルギーの省力化が可能。

陸上養殖

設備は 10 トン×4 基、3 トン×2 基（最大飼育数 2000 尾～）。

採算性を高めるため、一般大衆魚ではなく日本国内で養殖例のない高級魚を中心に養殖。

対象魚

- ・サラサハタ 東南アジアに生息する海水魚でクエの仲間。(2 万円/kg)
- ・エンブラウ 東南アジアに生息する淡水魚で鯉の仲間。(90 万円/4kg～5kg)
- ・ピラルクー 南米に生息する世界最大の淡水魚、鑑賞用で販売予定。



陸上養殖及び水耕栽培施設



施設内部



○三福ハーブファクトリー（倉庫を再利用）愛媛県松山市上高野町 93-1
（植物工場）

LED型水耕栽培でハーブを栽培している。

LED型水耕栽培の仕組み

- ・太陽光の代わりにLEDで光合成
- ・土の代わりに水中に根を張らせ、液状の肥料を使用
- ・室内で温度と二酸化炭素をコントロール

メリット

- ・安全で安定的の供給が可能
- ・品質と成長をコントロールできる
- ・栽培期間中、農薬不使用
- ・ニーズに合わせた栽培が可能

栽培作物

- ・バジル 甘くスパイシーな香りでイタリア料理に使用される
- ・ルッコラ ゴマのような風味をもち、ピリッとした後味がある
- ・ビーツ 葉はビタミンC、鉄分などが豊富で根はカブ状となり甘みをもつ
- ・イタリアンパセリ パセリ全般栄養価が高い。通常のものに比べ、まろやかで味が強い
- ・チャービル フレンチパセリとも呼ばれる
- ・青紫蘇 刺身も添え物、ドレッシングなどに使用される
- ・スピナッチ ほうれん草の幼葉はクセがなく生のまま食される

（質疑応答）

Q：設備費は？

A：三福アクアポニックス工場の陸上養殖は約 1400 万円、工場は約 1000 万円、三福ハーブファクトリーは約 4000 万円。

Q：売り先は？

A：松山市内のホテル、旅館、飲食店、注文があればどこでも卸している。

Q：売上は？

A：三福ハーブファクトリーは年間 7000 万円、三福アクアポニックス工場はまだ出荷まで至っていないが、約 7000 万円を見込んでいる。

Q：従業員は？

A：各工場、3 名配置。

Q：月の電気代は？

A：約 40 万円。

Q：補助金の申請は？

A：補助金は申請していない。

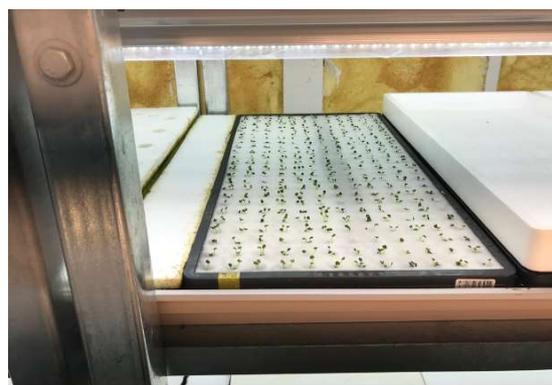
(所感)

浜田市での可能性

廃校利用などで可能性がある。

技術的にもLED型水耕栽培は可能だが、アクアポニックスについては専門的な技術や知識が必要。

今後の展開を注視していきたい。



(3) 愛媛県松山市一番町4丁目4-2 愛媛県議会
平成29年5月24日(木) 午後1時00分～2時00分

① 貯砂研修内容

・一次産業女子ネットワーク・さくらひめについて

② 調査研究活動の概要

さくらひめについて

愛媛県内の農林水産業に従事する女性たちでつくる「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」が、2016年に発足した。メンバー同士の意見交換や県内企業と連携した講座などを通じて次世代のリーダー育成につなげている。メンバーの活動を紹介する情報発信にも力を入れ、県は「女性ならではの感性、視点で農林水産業のイメージを変えてほしい」と期待を寄せている。ネットワーク結成は、県が始めた「一次産業女子活躍支援事業」を活用し、メンバーは20～60代の女性で構成されている。

(所感)

「さくらひめ」の名称は、県が開発したデルフィニウムの新品種「さくらひめ」から名付けられ、花はピンクで葉っぱは小振りでもとても綺麗であった。取り組みは、ネットワークの拡大、一次産業女子全国フォーラムの開催、ネットワークロゴの作成、商品開発プロジェクトの展開、フェイスブックでの情報発信など、幅広く活動されている。メンバーの平均年齢は、41歳で約80人の会員で、女子大生も巻き込み若い人の考えも取り入れられている。浜田市の一次産業は、高齢化と担い手不足で大変厳しい状況であり、女性の担い手を増やす対策等も考え、一次産業を活性化につなげて行くべきと感じた。

